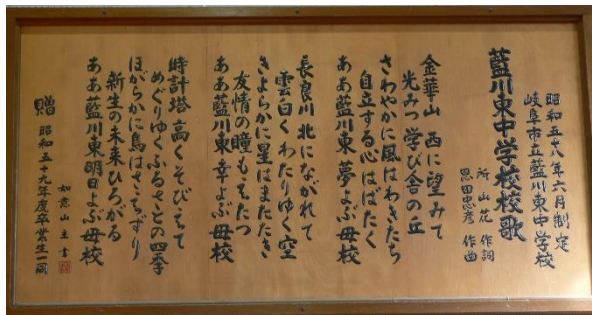


校歌に歴史あり 作者の思いが込められています

校長 神谷俊行

偶然目にした作者のこと

岐阜市社会福祉協議会 芥見東支部長の多田喜代則さんから「芥見東 社協だより第65号」をいただきました。社協だよりに、藍川東中学校の校歌を作詞された、所 稔(山花)さんのことが、「元気な92歳活躍中」というタイトルで紹介されていました。大洞桜台に在住で、今も俳人として活躍されています。



「金華山 西に望みて・・・」で始まる藍川東中学校校歌。入学式、卒業式、始業式、終業式、儀式では必ず歌う校歌を作詞された所さんに、作詞された当時のことをお聞きしたくてご自宅を訪問させていただきました。

校長 どのようなきさつで校歌を作詞されたのですか。

所 以前、中学校で国語の教師をしていましたが、昭和51年度から昭和56年度まで藍川中学校に勤務していました。昭和57年4月、藍川東中学校が開校したときに生徒とともに藍川東中学校へ移ってきました。



その年、当時の校長先生からの依頼を受けて作詞しました。校歌は、将来にわたって歌い続けられ、卒業生や地域の人の心に残るもの

ですから、作詞することについては再三辞退しました。できれば、有名な作詞家に頼んでどうかと進言しましたが、「地域に住み、生徒のことも分かっている、俳句、詩の堪能なあなただからこそお願いしたい」と言われて引き受けました。

校長 校歌は、どんな思いを込めて作詞されたのですか。

所 冒頭に、「金華山、長良川、時計塔」と自分たちの育った地域の歴史や風土を、中盤に、「自立する心、友情の瞳、新生の未来」と中学生時代に身に付けてほしい自立心、友情、想像力を、終盤に、「夢呼ぶ母校、幸呼ぶ母校、明日呼ぶ母校」と生徒の心を常に守り育てる母校の存在を表しました。まじめさや純真さのあふれる生徒が、本気になって歌う、魅力ある歌詞にできないかと試行錯誤の連続でした。

校長 校歌は、藍川東中学校の開校と同時に制定されたのですか。

所 開校2年目の昭和58年6月、藍川東中学校落成記念式典が開催され、そのとき、校歌が披露されました。また、ふれあい広場にも校歌碑が建立されました。



校長 開校当時の藍川東中学校はどんな様子でしたか。

所 私も昭和50年に桜台に引っ越してきましたが、新しい住宅がどんどん建ち、生徒も毎年増えてきました。まじめで、純真な生徒が多く、落成記念式典での全校合唱を聞いたときの感動は今でも覚えています。美しい自然と豊かな文化財に恵まれた郷土とともに、校歌は心の中に生き続けることでしょう。